

令和4年度指定管理業務実績評価委員会 議事録

(議事について事務局より説明)(会議の公開、傍聴の許可を決定(傍聴者無し))

神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会の設置及び運営に関する要綱に基づいて、委員長については互選により草加委員が、副委員長については委員長の指名により垣内委員が選任された。

○草加委員長

それでは、次第の3、評価項目について事務局より説明をお願いします。

(評価項目について、事務局より説明)

○草加委員長

事務局からの説明に対して、質問等はあるか。

(質問及び意見なし)

○草加委員長

それでは、次第の4、実績についての説明に移る。(1)サービスの向上、(2)管理経費の節減等、(3)団体の業務遂行能力の実績について、指定管理者である公益財団法人神奈川芸術文化財団から説明をお願いします。

(実績について公益財団法人神奈川芸術文化財団より説明)

○草加委員長

ここまで、説明があった内容について、御意見、御質問等はあるか。

○高野委員

資料1、1ページ目の下段、施設の維持管理及び舞台技術の人員配置について、県民ホール、KAAT、音楽堂に専門職員を置き、3館の運営の平準化を図ったとは。3館それぞれに別の専門職員がいるということか。

○神奈川芸術文化財団(薄井専務理事)

県OBの電気技師をKAATと県民ホールに配置している。音楽堂は図書館に電気技師がいる。これらの技術職員は、施設全体の維持管理も行っている。3館別々に配置しているが、

連携して意見交換しながら施設運営に取り組んでいる。舞台技術関係については KAAT に在籍していた舞台技術職員を異動させて、現在、県民ホールに配属している。その職員が KAAT と連携した形で運営している。また、その県民ホールの舞台技術担当職員が、音楽堂の運営を支援している。このことを踏まえ、3館一体化した形で運営を行っていると表現した。

○高野委員

3館担当で情報交換している、とかでない「平準化した」、という言い方がおかしいのではないか。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

言い方が乱暴すぎたかもしれない。これまで舞台技術職員がいたのは KAAT で、県民ホールや音楽堂では、これまで舞台技術職員が配置されていなかったのも、委託をかけていたところ、KAAT の人員を県民ホールや音楽堂に割いた。KAAT のニーズを県民ホールや音楽堂、全体で補い共通の認識をもてるようにした。音楽堂についても、技術や考え方を共通させるために、記載が悪かったところもあるが、3館で考え方を統一させ、統一的な運営を図っている。それぞれの館の役割が違うため、特徴をバランスよく活かせるように、本部も事業部長もバランスよくするようにしている。

○高野委員

その話は重要なことだと思うが、本部の話は記載がないし、この文章のみ読んでいってつながっていない。文章も前の方と後ろの方がつながっていないなど、今のような説明を記載しないと外部の人間が見てもわからない。なおかつ、平準化といっても3施設やっている内容が異なること、基本的なところは同じかもしれないが、舞台等は異なること、かつ統一的なものもあるところが書いていない。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

御指摘の通り、うまく表現できていなかった。実際のところは今説明したとおり。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

表現に至らないところがあり申し訳ない。また、指定管理の関係だと施設運営は同じ委託業者が KAAT と県民ホールに入っており、入札も仕様も一緒にやっている。それらは統一している。また、KAAT の舞台技術職から人を分けて対応している。ここが分かる形で書き直したい。

○草加委員長

平準化という言葉の表現の仕方が誤解を生じる形であったかもしれない。

○中島委員

独自性と平準化について、私も、平準化は誤解を生みかねないので避けた方が良いのではと思う。情報共有して一歩前進した。一体性に進んでいるという理解はあるが表現上の問題と理解している。

○佐々木委員

今の続きのような質問になるが、P8、令和2年度から原則月に1回実施している施設運営調整会議については、今までなかったのか、また、これを行うことにより、どのようなメリットがあったのか知りたい。また、P1とP8と内容は同じような感じだが、別の項目に同じような内容が書いてあることが多い。ハラスメント研修など。一つの取組をいろいろな項目で評価するようになっているが。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

施設運営調整会議は2年前までなかった。施設ごとに、生い立ちや運営の仕方や貸し方が異なっているため、各館が独自にやっていたことが多かった。元々、財団が指定管理の業務をしていく中で、県民ホールの指定管理に音楽堂の指定管理が加わり、KAATの指定管理も新たに加わった。3館一体的運営をするように指示があったので、効率性を高める、内容を良くするために、指定管理を一体的に運用する手法を提案し、実施している。KAATと県民ホールの施設運営を一体化すると経費が安くなるため、効率的になる。コロナ対策についても安全性を高めるため、各館の情報共有をするなど進めているところ。情報交換についてはメリットを感じていて、今後も続けていきたいと考えている。

また、評価の基準、区分の設定上、説明に何度も同じ内容が出てきてしまうところがある。

○中島委員

先生のためのアウトリーチ、オンラインで実際にやられた中身を教えてほしい。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

音楽堂のアウトリーチ事業は、今まで子どものためにやっていたところ、ニーズへの対応を広げるため子どもたちに対応する「先生たち向けに」ということで取組を始めた。今年度に入り、（オンラインではなく）対面で実施できているので、昨年度と今年度の内容を合せて回答をしたい。この「先生のための」事業は、学校のニーズを確認しながらやっていて、メニューは二つ。一つは先生に子ども役をやってもらうもの。子どもの気持ちでプログラムに参加してもらう。もう一つは、研究授業的にやる。やるのは子どもたちだけど、あとで先生が振り返りをしていくもの。いつも教える立場である教員が、子供の気持ちを思い出し、音楽の楽しさやワクワク感、あの楽器を使いたい、などと。ある学校では、これをやった後で研究授業的なメニューにつなげるなど、セットにすることも予定されている。

オンラインでは、子どもに教えるにはこのようにすると楽器としての音色が変わるとか、なじみのない楽器を教えるにはどうしたら良いか、などの説明にとどまっていた。しかし、「先生のためのアウトリーチ」は、始めたばかりではあるが、今年度は音楽をやる喜び自体を届けられるようになった。学校や地域のニーズや特性などを踏まえながら考えていく。

○中島委員

単純に言うと、先生たちが子どもたちに音楽をする喜びを伝えられるようにするのが成果か。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

結果論的にお話してしまったが、当初はそういうアウトリーチの手法を、音楽家が子どもたちのもたに行くのでなくても、先生たちに教えて、先生たちが手法を学んでいけば、私たちが一回行くことで、より広がるのではないかと、県域は広いのでできるだけ多くの地域に届ければ良いと考えていた。大きな副産物として、先生たちが音楽の喜びに気付いてくれることから、音楽の普及が始まるということを実感している。この事業をやることの大きな肝になる。

○垣内委員

資料1は、基本的に非公募で行った指定管理の評価としては公表が前提となると見せ方が重要になる。その中で3点。

まず、社会と芸術をつなげるポータル、これで、3館連携でつながっていく期待も成果も見えるが、ポータルとはそもそも何か。ポータルとはURLがあって、色々なサービスを受けられるイメージがあるが、この資料を読むとそのような感じでもない。「3館でやっていた機能を集約した事業」とある。これはプロジェクトなのか。社会連携ポータル、重要で魅力的で可能性も感じるが、どういうものなのか。いただいた資料でどこに入っているかもわからない。せつかくの売りの部分の内容、また、私としても内容が良くわからないので、積極的なPRを入れつつ説明を具体的に。

2点目として、せつかく沢山のことをしているが、具体的にこういう成果があった、というところを見せてもらおうと良い。例えばオンライン配信、導入したが、その結果どうなったのか。オンライン配信は皆導入している。劇場はロケーションにより地理的制約があるが、遠い人も見ている、とか、普段興味をもたない年代の人が見ているとかプロフィールも把握しているなら、こんな成果が出た、なので次につながる、などが書いていないと。評価Sがつけられるね、となるくらい書いてくれないとAに留まる。施設の維持管理について、修繕計画を提案した、とあるが、このような方向で、など具体的な例示があるとわかりやすい。その下の文化財、形を現状変更できないところとのバランス、落としどころをどう調整したかなど、具体的にかけると良いのでは。

P5、アンケートを実施した、という結果だけでなく、対応した内容は記載すると具体的なイメージが伝わって良いのでは。

最後に、コロナの影響をどのように評価に入れれば良いか。指定管理の政策自体はコロナの影響を考えずに作った記憶がある。人数も利用者数もノーマルな状況での数字。明らかに2021年は2020年度比較すると回復しているが、コロナの影響がある。関係者はわかっているが、そうでない方々にも理解してもらえるように100ある事業のうち20は中止、30は入場制限入った、その中で実施したところ、それぞれ、1000人のところ500人にしたが400人になった、そのため8割入ったので計画どおり、など。具体説明なしに数字だけ見ると厳しい成果だと思われてしまう。来場者の満足度は相当高いはず。この状況の中、事業を行っているのがまず奇跡。そのようなデータも入れて、できることはやって、うまくいっていて、満足度も高い。という情報を入れたほうがいい。このコロナ禍の影響を御自身でどう評価したのか教えてほしい。

○神奈川芸術文化財団（堀内事業部長）

これまで3館が個別に取り組んできた、人材育成や地域との連携、社会包摂の取組などを、新たに立ち上げた社会連携ポータル課に集約し、新たに活動を始めた。まだ1年目で試行錯誤である。これから発展させていこうとしている。各館の具体的な事業と結び付きながら、例えば鑑賞サービスであったり、県内、地域に出向いて直接連携していくマッチングをしていったり、というようなことを、社会連携ポータル課が行うことで、そこに知見経験を蓄積し、再生産し積み上げていく。これを各館ごとにバラバラで行うのではなく、財団全体で、一つの場所で進めていくことで、価値を高めていきたい。各館からメンバーを集めてスタートした。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

活動報告書が1冊できたのが成果。神奈川芸術文化財団でバラバラにやっていることが見えなかったものをまとめた。これまではまとまった記録もなかった。これがあれば、財団内部でも県にも共有できる。これからどのように強弱つけながらやるか、3館同じようにインクルーシブ的な水準はそろえ、施設毎に特化したものは伸ばしていく、など、これから進めていきたいと考えている。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

社会連携ポータル課を昨年度、KAATの施設内に設置した。

前々年度から、今度の指定管理期間に向けてどのように組織立てしていこうかということで、社会、文化、芸術、福祉、教育、観光とどのように複雑に絡んでいくのか。このことは、一番のテーマ。どうこなして、どう見せて、どのように皆さんに参加していただくか。今年から、財団本部のある県民ホールに社会連携ポータル課を移設した。実際は、「この3

館が、社会連携ポータル化していく」ということが、一番我々の頭の中にあった。例えば、音楽堂は、60年間県民の皆さんに親しまれていた。音楽堂と県民の間には、築き上げてきたあるルールがある。このルールを次の段階に無理なく移行するにはどうしたら良いか。

60年間（音楽堂）かけてやっていたもの、10年間（KAAT）かけてやってきたもの、それぞれの時代層を帯びているが、これらを一緒にするためには違った概念を過去に据えなければならないと考えた。KAAT だけでは据えきれないので、本部にもってきて事業部長の管轄で財団の仕組み的にも県（行政）との連携のためにもこのやり方はどうしたら多様に実現できるのか。まだ、試行錯誤しながらだが、その方向は間違えていないと思っている。これはオンラインもまさにそう。私たちがずっと携わっている、人と人が対面でのみ可能であるという前提でやっているものの中で、オンラインという全く新しいものが唐突に入ってきた。オンラインは有効だと思う人、そうでない、オンラインでは届かないと思う人がいる。今は、どれがどれで、というのはなかなか難しい。それも社会連携ポータルという概念の中でもう一度整理していかないとならない。

コロナについての記載が少ないことは反省だが、コロナによって出てきた問題は新しく出てきた課題ではなく、私たち財団、及び日本の公共施設があらかじめそれぞれに問題意識として抱えていたもの。あらかじめあったものがコロナによって改めて出てきたと思っている。「コロナだからこう」、「コロナだからここを克服した」や「コロナをどうした」というよりは、私たちとしてはコロナによって今の混乱が惹起されているのではなく、あらかじめあった問題がコロナによって改めて浮き彫りにされたと考えている。私たちが今まで抱えてきた問題に対する問題意識を、そのまま問題意識として持ち、解決に向けて頑張れば良いという思いでやってきている。そのため、1年目と2年目について、経済的な打撃はあまりなかった。おそらく、元々意識があったから。とりあえず社会連携ポータルが上位概念、文化と社会、私たちをつなぐ円の中で、それぞれの課題は解決すべきと考えている。このことを上手く記載できておらず申し訳ない。補強するようなものばかりで申し訳ない。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

コロナの影響については、令和2年度は影響が大きく、利用料金では2億5千万円、事業収入も1億3千万円減少している。県から補填していただいたり、我々の事業で積み立てていたものを赤字につき込んだり、オペラを中止したり、常勤役員を一人減らしたり、随分厳しい取組をやってきた。また、国からの補助金を活用するなどして、なんとか経済的な打撃を残さないようにやってきた。その後、利用料金収入については、令和3年度は、県民ホールだと、通常年の9割程度まで戻ってきており、その影響は収束しつつある。

安全性を高め、色々な事業をやり、お客さんをたくさん入れていくという形を作ってきたのかな、と思っている。今、またこういう形でコロナが出てくる中でも、安心して劇場に来てもらうことが大切。そういった流れを消さないことが大切。安全性を高め、いいものを創って、やっていくということが大切。

○谷垣内委員

社会連携ポータル課というのを作って、劇場に来る人だけでなく、積極的にその地域・県域全体にわたって刺激を与えたり文化的活力を刺激するという意図で作ったことは分かった。こういった活動をもっと展開されるといいなと思った。一方でそれぞれの館が個性を保ちつつ、全体としての姿を追求するということに共感をもてたので良かった。こんなに素晴らしいことをやっているとは、神奈川ってすごいなと感動した。

ただ、横浜中心となっていることは県外から見ても感じる。それぞれ色々な事情があると思うが、こういった形で作ったものをあちこちに届けるためにもオンラインなどは使えるので更なるアプローチなどを考えてほしい。

○草加委員長

県民のホールとしての役割をどう果たしていくのかという話だと思う。

○高野委員

P1、各ホール経年劣化がある。修繕計画を作成して県に出したとある。施設を持っているのではある程度当たり前。コロナで公演を中止したなどは修繕のチャンスだと思う。フレキシブルな対応をどこまでやったのかどうか。劇場施設は年間通して集客計画も立てるので、合間合間で修繕になる。それらを加味したものかどうか。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

指摘いただいた様々な問題について。三館で一気に解決する手だてについて、県庁といかなる方法がありかなしか、ここのところ協議している。今はっきりとは言えないが、60年間使った小屋、47年間使った小屋、10年間使った小屋では、その時々で修繕の概念が違う。そのようなものを一括に考えるわけにはいかない。とりあえず足元を払うので精一杯。しかし、とりあえず、何十年の間で、どこの修繕が必要かどうかの計画書をとりあえず提出した。御推察のとおり、ピンチがチャンスというが、そういう風になかなか答えられないのがコロナ。完全に閉め切らないと修繕はままならないという状況なので、てこずった。可能な限りやったつもりではいる。今までできなかったことを計画的にやる、ということではできなかった。コロナ対策で手一杯。動きが鈍かったのは間違いない。

○高野委員

そうではないかと思って念のため聞いたのだが、今後やっていく上で、計画は計画けれども、実施時期とかフレキシブルな対応できるようにお願いしたい。

○草加委員長

財団だけで決められることではなく、設置主体の財政的な問題もあるがバランスよくや

ってほしい。

次に、5の委員による意見交換に移りたい、事務局より、(1)の委員会からのモニタリングについて説明をお願いします。

(事務局より説明)

○草加委員長

続いて、指定管理者の事業実績についての評価に移りたい。

評価の方法は、最初に説明があったとおりSからCまで段階的に点数をつける。

項目ごとに全員の評価を伺うので、それぞれ挙手をしていただきたい。

まず、1ページ目上段。

Iサービスの向上の1 指定管理業務実施にあたっての考え方、(1)指定管理者としての基本方針等について、評価をお願いします。

○佐々木委員

先程の「平準化」という表現や見せ方を変える等の意見はおいておいて、ということで良いか。

○草加委員長

御指摘があった部分に関しては、最終的に外部には修正していただくということ前提で評価をしたいと思う。

○事務局（文化課牛嶋 GL）

シートは本日の資料ですので、この表現のままやらせていただく。

報告書という形で、皆様の評価や御意見をホームページに載せる。その中で、今回いただいた御意見を追加した資料を入れ込む形で考えている。

○草加委員長

指摘事項はその中に載せていただけ理解で良いということだそう。

では、1ページ目、上段、(1)指定管理者としての基本方針等について、評価をお願いします。

A-6名

全員一致ということで、ここの評価はAとする。

次に、1ページ目、Iサービスの向上の2の施設の維持管理について、(1)施設及び設備の維持管理に関する業務について、評価をお願いします。

A-6名

これもA評価とする。

次に、2～6 ページ目の上段、3の利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金の
(1) 3館一体運営を踏まえた事業実施サービスの向上の取組み、(2) 県の文化政策と一体となった自主事業の実施に関する事項、(3) サービスの向上及び利用促進の取組みについて評価をいただきたい。

S-3名

A-3名

同数になってしまった。

○事務局（文化課一宮副主幹）

同数の場合は、協議で決めていただければと思う。

○中島委員

Sにした大きい理由は、新しい取組がこれまでの可能性を引き出す。これまで以上にしていくなということが見えたなと思った。実際にやられた部分もあるし、そこを重視した。Aプラスや、Aの部分もあるが、Sの方が勝った。

○草加委員長

コロナ禍で、すごくよくやっているなど。コロナのことを考えると、Aかなと思った部分もあったが、コロナだからこそよくやっているなど感じ、S。

○谷垣内委員

同感である。コロナの中これだけ色々なことを実施できたということは、すごく頑張ってくれたのだなという印象がある。

○高野委員

元々の要求事項に対してしっかりやっているとは思いますが、Sは大幅に上回っているということ。新しいことをやっていることは上回っているが、それが届いているかどうかの判断。要求事項クリアしているから、A。

○草加委員長

なるほど。

○高野委員

良好は良好。良いのだが、Sではないと考える。

○谷垣内委員

この状況で実施できているのはすごいと感じた。

○垣内委員

どこと比較するかということ。これだけ予算をかけて運営している施設と比較した時に極めて良好な状況であるかということ、微妙に引いてしまう。良好であることは確か。そもそも事業書自体コロナのことを考えてない計画だから、そのところをどう考えるか。

○草加委員長

「極めて優れている」ではなく「極めて良好である」かどうかなので、私は「きわめて良好である」と思っているが、いかがか。

○垣内委員

良好かということどうか。

○高野委員

要求水準を満たしてはいるが、大きく上回っているかということそうではないと思う。極めて、というのは誰が見てもすごいと感じないとだと考える。見せ方の問題もあるかと思うが。見せ方が足りないと思う。

○草加委員長

一旦次に進み、この項目については最後に再協議とする。

次は、4つ目の評価である。6ページ目最下段、7ページの一番上（1）通常時の安全管理と（2）緊急時の対応について、評価をお願いする。

A-6名

ここの評価はAとする。

次に、7ページの5の部分。5（1）地域との連携 地元企業の業務委託等について、評価をお願いする。

A-6名

ここも評価はAとする。

7ページの最下段 管理経費の節減に関しては、既に事務局から説明のあった通り、評価はAとなっているので、次に移る。

次に、8ページ目の上段 7（1）実行体制及び委託業務のチェック体制、（2）人材育成、労働環境確保等について、評価をお願いする。

A-6名

ここも評価はAとする。

続いて、8 ページ目最下段 7 財政的な能力について、決算書ということで、高野委員から御意見はあるか。

○高野委員

決算書を確認した。安定した指定管理業務実施について、安定性、信頼性の度合い、コロナで厳しかったが今年度は改善している、という点では良好だと思うが、素晴らしいかというほどでもない。素晴らしいというのは、どういうものを素晴らしいと評価すれば良いのか。補助金が主なものだが、自主財源を伸ばしたなどあれば財団としての活動がアピールできる。提携企業等から大きな寄附を確保したとかなら、S がつく。

財団は、行政からの補助金のみではなく、その部分にも力を入れていかないといけない。

○草加委員長

非営利の経営を決算書ベースで評価するのは難しいと思う。高野委員の専門的な意見も参考に、評価お願いしたい。

A-6 名

ここも評価はAとする。

次に、9 ページ 9 コンプライアンス社会貢献（1）から（4）までについて、評価お願いしたい。

A-6 名

ここも評価はAとする。

次に、10 事故・不祥事への対応、個人情報保護について、評価お願いしたい。

S-1 名

A-5 名

Aが多いので、委員会の評価としてはAとする。

最後、11 これまでの実績について、評価お願いしたい。

A-6 名

ここも評価はAとする。

戻って、先程の、3 の評価について。いかがか。

○高野委員

近松心中物語について、満席に近かった。人をあれだけ入れて良いのか、とか、コロナの中でよくやっている、ということはわかるが、細かい部分でひっかかるところもある。なので、100 点満点ではないのかと。あと、モニタリング、会場アナウンスが不足していた等もある。コロナの中でよくやっていたという意見はよく分かるが、運営の仕方などどうなのか。

○事務局（赤池文化課長）

整理退場ができていなかった、という御指摘はそのとおりだが、入場者数について、席にフルで入れていたのは、国のガイドラインや県のガイドラインにのっとっている。違反しているわけではない。

○谷垣内委員

100点満点でないとならないのか、95点なのか、実際に拝見していないが、いろんな会場の演奏会など、観客の制限、時間の制限などのシーンを想定して何通りもの準備をして、実際に公演をされて終えているのはすごいことだと、財団の努力は評価したいと思ったところ。

○草加委員長

100点ということはないが、3館がこれだけの事業を作り出していく能力というのは全国で見ても稀有だと思う。中止になった公演もないではないが、創造できる劇場としてのこれだけの作品を作り出す能力を蓄えつつあることを評価したい、全国的にみてもトップクラスだとして、事業という点では評価したいと思う。

○佐々木委員

それぞれのイベントやオンライン配信で、参加人数の目標をもって実施していると思うが、事業報告書を見ると、オンラインでは参加者が数十人などというものもあり、事業のラインナップは素晴らしいが、実績がやや物足りないと思い、Aにした。事業の達成度が読み取れない。

○神奈川芸術文化財団（堀内事業部長）

インスタライブについては、お客様との対話・アーティスト同士の対話をお客様に届ける場であり、事業に付加価値を付けていくものであるのであって、集客目標はおいていない。コロナ禍でアフタートークなどを開催しにくい中でアーティストの声を直接届ける場として試験的に1年行ってみた、というところ。今年は、Webラジオでやろうと取組を始めている。回によっては数十人なので物足りない、多くの人に見てもらいたかったということはあるが、事業本体というよりは付随するものということで、ポストトーク、プレトークと同様に、上演に価値を付け加えるものとしてチャンネルを探している過程、と取ってもらえるとありがたい。

○草加委員長

トライ&エラーをしているというところか。

○佐々木委員

インスタライブなど、今までやっていなかったことをやってみて、トライ&エラーということで、コロナ禍において、良いチャンネルを探すというのは良い試みだと思う。ただ、実績としては YouTube チャンネルの数百回という再生回数はまだ寂しいので、どんどんPRを行っていただきながら、という期待を込めて、前向きにとらえてSとする。

○草加委員長

将来への期待を込めてSをいただいたので、3の項目については、

S-4名

A-2名

委員会の評価としてはSとする。

全体を通して、最後の総合評価については、Sが一つ、それ以外はAということで、Aとする。

最後に総合評価についての御意見をお願いします。

○中島委員

新しい取組がこれまでにない可能性を引き出せることと思って評価した。

○谷垣内委員

連携ということをキーワードに、個性を生かしながら、更に広域に展開してもらえればありがたい。

○垣内委員

3館連携、ポータルを評価したい。併せてアウトプット、何をやったかだけでなくアウトカムもどんなインパクトが生じているか、念頭に置きながらやっていただきたい。ウィズコロナで頑張っていただければと思う。

○佐々木委員

昨年は観客として、巡回公演の「冒険者」を見た。身近で見られる幸せを感じた。今後も県民の喜びにつながる事業を展開してほしいと思う。

○高野委員

厳しい意見をいくつか言ったが、3館は神奈川県民にとって大事な事業だと考える。コロナで頑張ったところで、総合評価Aとなった、これに満足せず、さらに頑張してほしい。

○草加委員長

皆さんのおっしゃられたこと、事業報告書に、エビデンスとして表現できるようにしてもらえるとありがたい、アンケートの成果とかコロナの影響がどう運営に活かしているのか、劇場を開く、シーズン制を設ける、創造環境と劇場の未来を考える、とかがどうなっていくのか、何をしているのか、どうなったのか、など、書いていけると良いと考える。それが芸術監督を置いている理由だと思う。是非国内でも有数の想像力、技術スタッフを持っている劇場だと思うので、「こんなにすごい」というのを見せてほしい。頑張してほしい。

○事務局（赤池文化課長）

閉会挨拶